

千葉経済大学短期大学部 一般選抜入試

出題の傾向と対策 「国語」

1. 概要

本学の一般選抜入試の「国語」は、「国語総合（古文・漢文を除く）」の範囲から出題されます。主として「基本的な文章読解の力」、「文章表現力」、「日本語に関する知識」、「国語科に関連する一般常識」等の各項目について、その実力を確認することを意図しています。

例年、問題は3つの大問で構成されています。その内訳は、文章読解を中心とする問題が2題、日本語表現に関する問題が1題となっています。

2. 出題傾向とその意図

（1）文章読解を中心とする問題

毎年、文章読解を中心とする問題が2題出題されています。

問題文は、ここ数年、評論文やエッセイ等が取り上げられています。文章の執筆年代は、新刊本から20～30年ほど前に執筆された著作までと、やや幅があります。問題文の分量は年により異なりますが、おおむね2000字程度から3500字程度となっています。文章の難易度については、中程度のものが選定されています。

設問は、文章の論旨・内容理解を問う選択問題、空欄補充問題、抜き出し問題、漢字の読み書きや言葉の意味を問う問題が中心となります。また、内容解釈をふまえた文章表現力を見る50～100字程度の記述問題も出題されています。標準的な私大型の問題です。

（2）日本語表現に関する問題

日本語表現に関する問題について、近年では送り仮名を含む漢字の書き取り問題などが出題されています。

3. 対策

文章読解を中心とする問題については、私大型の標準レベルの問題集を使った学習で十分対応可能でしょう。問題文を正確に読み取る力と、選択肢の微細な差異まで検討し、違いを見極める力をつけることに重点を置いた勉強が効果的です。また、新書等の書籍を読むことも有効です。その際に留意すべきは、ただ漫然と読むのではなく、主張や結論はどのようなものか、またそれらはこういった手続きを経て導き出されているのかといったことを意識することです。

漢字の読み書きの学習にも力を入れることが望ましいと言えます。文章読解を中心とする問題においては、毎年、一定量の漢字の読み書き問題が出題されています。また、日本語表現に関する問題においても漢字の知識を問う問題が出題されています。そうしたことから、漢字の問題集等を用意して学習することをお勧めします。その際、送り仮名の確認にも力を注ぐとよいでしょう。